

普及活動情勢報告（平成28年4月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしおミョウガ部会が「出荷目慣らし会」を開催



ミョウガの着色具合を確認する生産者

ミョウガの出荷が本格的に始まるのに合わせて4月12～19日の間、J A土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場においてミョウガ部会「出荷目慣らし会」を12回開催し、ほぼ全戸の210戸が参加しました。

会では、J A販売課が販売報告と出荷調整の注意点を説明した後、出荷規格に沿って色合いを中心に、生産者が等階級を確認しました。

農業改良普及課からは、曇雨天が続く場合の管理のポイント及び環境測定機器を導入したハウスの「見える化」の重要性を呼びかけました。

須崎の食材を直販所の商品に！－6次産業化研修会－



須崎の食材を活用した実習

3月24日にJ A土佐くろしお女性部を対象に6次産業化研修会を開催しました。この研修会は須崎の食材を活用した商品開発を目的とし農家3人、関係機関2人が参加しました。

研修会では農家で日ごろ作られている、「ミョウガまぜ寿司」と「ジャコ味噌」の作り方を研修するとともに、作業工程のレシピ化と原価計算を行いました。参加者には作り手が変わっても同じ味が出せるよう、レシピ化することの重要性を理解してもらうことができました。

農業改良普及課では、今回算出した原価を元に、直販所での販売に向けて、パッケージや商品価格を検討し、須崎の食材を活用した6次産業化を支援していきます。

集落営農組織の発展のために－集落営農塾現地研修－



（農）田野川甲営農組合での研修

3月23日に集落営農塾現地研修を開催し、管内の集落営農組織に関する農家4人が参加しました。研修では幡多地域の（農）田野川甲営農組合と（農）荷稲米・米クラブを視察しました。

法人からは、「法人になり周辺の農地が集まってきている。」「水稻だけで運営していくことは難しい。法人に水稻以外の品目を導入する場合、地域に根差した品目が望ましい。」などの意見が出ました。

参加したある組織から「やはり今後は法人化も考えなければ。」との声があがり、視察後役員会で法人化についての勉強会が実施されました。

農業改良普及課では、集落営農塾を開催するなどして管内集落営農組織の法人化を支援していきます。

茶の害虫及び天敵発生モニタリング調査の開始



天敵発生調査をしている様子

3月31日、津野山地域内の2地点において、茶で近年新たに問題となっている害虫のチャトゲコナジラミ及び天敵のシルベストリコバチの発生消長を把握するための調査が始まりました。この調査は、つの茶産地の防除適期を把握する上で参考とする他、天敵に優しい防除体系による天敵の温存・活用のための基礎データとなります。

農業改良普及課は、11月まで調査を継続して発生消長のピークを把握し、JA・茶生産者への情報提供を通じてつの茶の安定生産を支援していきます。

JA津野山茶関連施設竣工記念式典の開催



施設竣工記念式典挨拶

3月29日にJA津野山茶関連施設竣工記念式典が、JA津野山営農センター輝及び津野町西庁舎で開催され、生産者及び関係者ら約80名が出席しました。茶工場の高度化と改修、加工場（クリーンルーム）が新設されたことで、荒茶品質の向上、新商品の開発等、つの茶の販路拡大が期待されます。

農業改良普及課は、JA及び茶業試験場、地域農業推進課と連携して、地区別座談会や生産者版GAPへの支援、茶の害虫及び天敵発生モニタリング調査による防除適期の把握等を実施し、つの茶の生産振興に努めていきます。